

機関番号：12603  
研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2008～2010  
課題番号：20242007  
研究課題名（和文）ソ連及び旧共産圏の文化におけるスターリン批判と雪解けに関する超域横断的研究  
研究課題名（英文）A Transdisciplinary Study on the Cultures in the Soviet and Other Communist States during the Period of De-Stalinization and “Thaw”  
研究代表者  
亀山 郁夫（KAMEYAMA IKUO）  
東京外国語大学・学長  
研究者番号：00122359

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、1950～70年代にまたがるソ連および旧共産圏における文化と政治イデオロギーに関わる複雑な相関関係を、文学、文化学のみならず、一部、社会科学的なアプローチも取り入れた領域横断的な視野から考察し、当該地域における歴史的な意味、また同時代的な意味を明らかにするとともに、全体的画一化と多極化が進行する21世紀現代におけるパラレルな意味を考察することで、現に存在する全体主義的国家における文化活動を考える重要な示唆を得た。

## 研究成果の概要（英文）：

This study examined the complex interrelation between cultures and political ideologies in the Soviet Union and other former communist states during the 1950's to 1970's. The study was conducted from a transdisciplinary perspective adopting research methods from literature, cultural studies, and also partly from social science. By clarifying the historical and contemporary significance of these regions, as well as examining the parallel meanings of the progressive general unification and multipolarization in the modern 21st century, the results of this study obtained fruitful implications for considering the cultural activities in the existing totalitarian nations.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	9,200,000	2,760,000	11,960,000
2009年度	7,100,000	2,130,000	9,230,000
2010年度	7,500,000	2,250,000	9,750,000
年度			
年度			
総計	23,800,000	7,140,000	30,940,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：ロシア東欧文学・比較文学・ロシア文化・表象文化

## 1. 研究開始当初の背景

亀山郁夫を研究代表者とする研究プロジェクト「ソヴィエト全体主義における文化と政治権力の相克および共生に関する超域・横断的研究」（基盤研究(B) 2005-2007年度）では、ロシア革命からスターリンの死去（1953年）までのソヴィエト時代における文化と政

治権力との相克と共生をめぐる、文学者・文化研究者のみならず、歴史学者、政治学者が共同研究を行った。その成果として2回の国際シンポジウムを開催するとともに、このテーマの論文・書籍を刊行してきた。

本研究は、そうした成果を活かすとともに、プロジェクトを実施する過程で自覚された

研究方法上の問題点を克服しつつ、対象をスターリン死去後の時代に広げて研究を発展的に継続することをめざした。

## 2. 研究の目的

主として以下の3つの側面から、スターリン批判後の「雪解け」の時代のソ連およびその他の共産圏諸国における文化の諸相を解明することを目的とした。

第1に、スターリン批判から雪解けの時期にかけての文化発展のプロセスを歴史的に解明することであった。文学作品に加えて、映画、美術、音楽などの様々なジャンルの作品を分析しつつ、歴史学、政治学、社会学などの知見も活用して、文化と政治的イデオロギーの複雑な相関関係を明らかにすることをめざした。

第2に、ソヴィエト文化史の理論化と現代の文学理論への貢献である。本研究が対象とするポスト・スターリン時代が、20世紀ソヴィエトの文化史においてどのような意味を持ったかを検証するとともに、さらに世界の文化史の中に位置づけることを試みた。

第3に、ポスト・スターリン時代の旧共産圏諸国における文化のモデル化であった。対象地域を旧ソ連以外の旧共産圏諸国にも広げ、より国際的な視点からスターリン批判の諸外国への影響と、そこから生まれた文化的多様性の問題にも触れ、この時代の共産主義国家における文化のモデル化をめざした。

## 3. 研究の方法

まず、本研究では研究代表者、研究分担者、および主要な連携研究者を4つのセクションに分けて、それぞれの分野で並行して研究を進めた。各セクションでそれぞれの専門に応じて研究を進める一方で、研究報告会や国際シンポジウムなどを開催して各セクションの研究成果を総合した。その際、研究組織のメンバーがこれまでに築いてきた国際的なネットワークを活用して、ロシアおよび欧米の第一線の研究者を招聘した。

## 4. 研究成果

言語文化セクションでは、2008年度にソ連と他の旧ソ連構成諸国との比較対照、日本の文化状況から投影されたロシア文化論などに取り組んだ。2009年度には、ポスト・スターリン時代のロシア・ソ連の文学が現代ロシアの文学作品に及ぼしている影響について考察を行った。2010年度にはピリニャーク、ソルジェニーツィンなどのソヴィエト文学、ナボコフ等の亡命ロシア人の文学、ソローキン、ペレーヴィンなどの現代ロシア文学について研究し、以上の成果を雑誌論文等により公刊した。

表象文化セクションでは、2008年度にはロ

シア・アヴァンギャルドの音楽や演劇等についての研究を行った。2009年度には、ショスタコーヴィチの音楽やグルジアの映画について、2010年度にはショスタコーヴィチの生涯と捜索についてさらに検討を加え、やはり学術雑誌等に論考を発表した。

歴史文化と政治文化のセクションでは、ソヴィエト社会の多様性を民族などの視点から諸外国と比較しつつ考察する研究成果が得られた。2009年度には、ソ連時代、とくにブレジネフ時代とそれ以降の時代を展望した民族問題や社会意識にかんする研究を発表した。2010年度には、冷戦時代とその終焉の過程を展望した研究を行い、その成果を公刊した。とくに、冷戦時代のソ連社会についての近年の研究動向を考察した研究、民族問題の再検討、冷戦終焉とソ連解体につながるソ連の政治体制・社会体制について雑誌論文や単行書を発表した。

研究組織で開催した研究会やシンポジウムは次の通り。2008年度には、他の科研のプロジェクトと合同で、「ソ連文化と記憶の問題をめぐる」と題するセミナーを開催した。そこでは、ポスト・スターリン時代の宗教と伝統、ソ連映画についての考察、ショスタコーヴィチとプロコフィエフの交響曲とその時代背景等のテーマをめぐる討論が行われた。

2009年度は、国際ワークショップ「ポスト・スターリン時代の文化的創造」を2010年2月22日に開催した。海外からはアレクサンドル・ゲニスとアレクセイ・ワルラーモフを招聘し、前者は「亡命ロシアの『第3の波』——自由の仮縫い」と題する報告を行い、ブレジネフ期の亡命文学者の活動と作品について論じた。後者は「土壌主義者と自由主義者の見たソヴィエト文学の『正当派』と『異端派』」と題する報告を行い、現代のロシア文学においてポスト・スターリン期のソ連文学をどのように評価されているかを論じた。さらに、研究組織の4つのセクションから代表者が報告を行い、政治文化セクションからはブレジネフ期のソ連社会について、表象文化セクションからは「雪解け」の時代のソ連映画について、歴史文化セクションからは戦後日本におけるスターリン文化の受容について報告を行った。

2010年度は、国際シンポジウムを2011年1月22日に開催した。これは、「自由への試練：ポスト・スターリン時代の《抵抗》と《想像力》」と題して、海外からもゲストを招いて公開シンポジウムとして実施した。まず、マイケル・ニコルソン（オックスフォード大学）は、「《雪解け時代》のしかめ面：ソルジェニーツィンとシャラーモフ」という論題で報告を行い、続いてリュドミラ・サラスキナ（ロシア国立芸術学研究所）が「《雪解け時

代》の文学：その勝利と挫折（パステルナーク、ソルジェニーツィン、フルシチョフの「コンサート）」というテーマで報告を行った。さらに、貝澤哉「液化化するスクリーン：雪解け以後のソ連《ヌーヴェルバーグ》映画」、亀山郁夫「シヨスタコーヴィチの贖罪」という報告を行った。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- ① 塩川伸明、《成熟＝停滞》期のソ連社会：政治人類学的考察の試み、スラヴ文化研究、査読無、9 巻、2011、pp. 29-37
- ② 前田和泉、奇跡のペテロ：リュドミラ・ウリツカヤ『通訳ダニエルシュタイン』論考、スラヴ文化研究、査読無、8 巻、2010、pp. 28-41
- ③ 岩本和久、ペレーヴィンとソルジェニーツィン、戦争と異世界：現代ロシア文学とスターリニズム、査読無、2011 年、pp. 59-67
- ④ Mitsuyoshi Numano, *Toward a New Age of World Literature*, れにくさ、査読無、2009、pp. 188-201
- ⑤ 岡田和行、ツェンディーン・ダムディンスレンと「知識人の迷妄」をめぐって、東京外国語大学論集、査読無、2009、pp. 107-120
- ⑥ 鈴木義一、現代ロシアの社会意識と市民社会：ペレストロイカ期の民主化論再考、立石博高・篠原琢編『国民国家と市民：包摂と排除の諸相』山川出版会、査読無、2009、pp. 249-272
- ⑦ 高橋清治、映画『懺悔』について：1987 年と 2008 年、スラヴ文化研究、査読無、8 巻、2010、pp. 121-139
- ⑧ 山口裕之、ベンヤミンはハイパーテキストの夢を見るか あるいは、ハイパーテキストの触覚性、Der KEIM、査読無、33 巻、2009 年 pp. 31-47
- ⑨ 鴻野わか菜、非公認芸術と絵本：イリヤ・カバコフ『世界図鑑』、ユーラシア研究、査読無、39 号、2008、pp. 38-43
- ⑩ 梅津紀雄、音楽の前衛とロシア・アヴァンギャルド、工学院大学共通課程研究論叢、査読無、46 巻 1 号、2008 年、pp. 17-33

〔学会発表〕（計 5 件）

- ① 塩川伸明、ペレストロイカ・冷戦終焉・ソ連解体から 20 年、ロシア東欧学会/JSSSEES 合同大会、2010 年 10 月 23 日
- ② Umetsu Norio, *Oriental Elements in Russian Music and the Reception in Western Europe: Nationalism, Orientalism*

and Russanness, *Orient on Orient: Image of Asia in Eurasian Countries*, 2010 年 7 月 8 日

- ③ Тецуо Мотиздуки, *Образ Волги в русской литературе: Поэма «Вверх по Волге» Аполлона Григорьева*, 東アジア・スラブ・ユーラシア学会、2010 年 3 月 4-5 日
- ④ Iwamoto Kazuhisa, *Psychoanalysis and Soviet Arts in the Stalin Era*, 東アジア・スラブ・ユーラシア学会、2010 年 3 月 4 日
- ⑤ 岡田和行、黒い影から差し込む光明：芸術映画「影 (Suuder)」について、国際学術シンポジウム「世界史のなかのノモンハン事件（ハルハ河会戦）—過去を知り、未来を語る—」2009 年 7 月 3 日

〔図書〕（計 5 件）

- ① 塩川伸明、冷戦終焉 20 年：何が、どのようにして終わったのか、勁草書房、2010 年、246 ページ
- ② 岩本和久、フロイトとドストエフスキー：精神文化とロシア文化、東洋書店、2010 年、232 ページ
- ③ 桑野隆、危機の時代のポリフォニー、水声社、2009 年、325 ページ
- ④ 亀山郁夫、終末と革命のロシア・ルネサンス、岩波書店、2009 年、414 ページ
- ⑤ 亀山郁夫、ドストエフスキー：共苦する力、東京外国語大学出版会、2009 年、268 ページ

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

亀山 郁夫 (KAMEYAMA IKUO)  
東京外国語大学・学長  
研究者番号：00122359

##### (2) 研究分担者

桑野 隆 (KUWANO TAKASHI)  
早稲田大学・教育学部・教授  
研究者番号：90143677  
塩川 伸明 (SHOKAWA NOBUAKI)  
東京大学大学院・法学政治学研究所・教授  
研究者番号：70126077  
望月 哲男 (MOCHIZUKI TETSUO)  
北海道大学・スラブ研究センター・教授  
研究者番号：90166330  
渡辺 雅司 (WATANABE MASAJI)  
東京外国語大学・名誉教授  
研究者番号：90133214  
沼野 充義 (NUMANO MITSUYOSHI)  
東京大学大学院・人文社会系研究科・教授  
研究者番号：40180690  
鴻野 わか菜 (KONO WAKANA)  
千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：50359593  
鈴木 義一 (SUZUKI YOSHIKAZU)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：40262125  
高橋 清治 (TAKAHASHI SEIJI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：30126106  
山口 裕之 (YAMAGUCHI HIROYUKI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：40244628  
小林 二男 (KOBAYASHI TSUGIO)  
東京外国語大学・名誉教授  
研究者番号：10107831  
川口 健一 (KAWAGUCHI KENICHI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：70169689  
岡田 和行 (OKADA KAZUYUKI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：70143617  
沼野 恭子 (NUMANO KYOKO)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：60536142  
前田 和泉 (MAEDA IZUMI)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  
研究者番号：70556216

(3)連携研究者

岩本 和久 (IWAMOTO KAZUHISA)  
稚内北星学園大学・情報メディア学部・教授  
研究者番号：402891715  
梅津 紀雄 (UMETSU NORIO)  
工学院大学・工学部・講師  
研究者番号：20323462  
古賀 義顕 (KOGA YOSHIAKI)  
東京外国語大学・外国語学部・非常勤講師  
研究者番号：10397010